

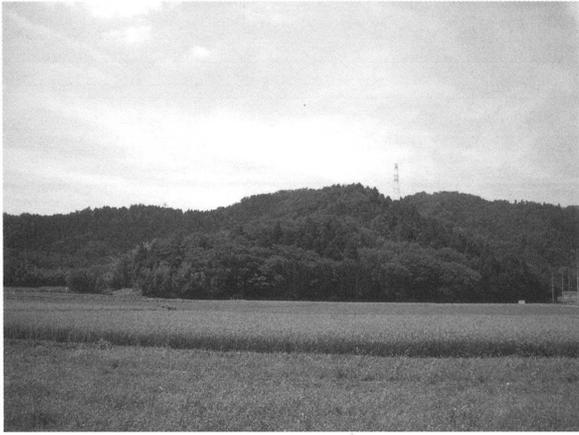
北近江一円を眺望

横山城跡

米原市と長浜市の境をなす横山丘陵の最高峰(約312m)を中心とする頂上部一帯に築かれたのが横山城です。築城時期は定かではありませんが、北近江を支配していた京極氏の支城として築かれたと考えられています。永正14年(1517)、浅井亮政あざい すけまさにより攻められ、浅井氏の勢力拡大による南進拠点として、永禄4年(1561)、浅井長政あざい ながまさによって本格的に改修されたようです。元亀元年(1570)、長政が信長を見限り離反すると、信長の近江侵攻が始まります。6月、織田軍は美濃との国境の防御ラインの要である長比城たけくらべじょう・刈安城かり やすじょう(上平寺城)を落とし、横山城を包囲します。これに対し、浅井・朝倉軍は小谷城の南東の大依山に陣を構え、姉川を挟んで対峙します。姉川合戦は織田軍が勝利し、羽柴秀吉・池田輝政・柴田勝家らが横山城を攻撃して、守将大野木土佐守おの の ぎ と さのかみは開城し逃亡。信長は秀吉らを城番として横山城に置き、小谷城落城の天正元年(1573)までの3年間、北近江の拠点としての役割を担います。

城の遺構は、丘陵最高地から三方の尾根上に展開しています。最高地点を北城、そこから派生する南尾根上に南城が築かれた「別城一郭べつじょういっかく」の構造です。横山城からの眺望は素晴らしく、東は伊吹山ほっこく わき おう かんや北国脇往還、西は長浜の平野部から琵琶湖を眺め、北は小谷城こ ごとや虎御前山城とら ごぜん やまじょうを一望できます。北近江の押さえとしては絶好の位置にあることがわかります。

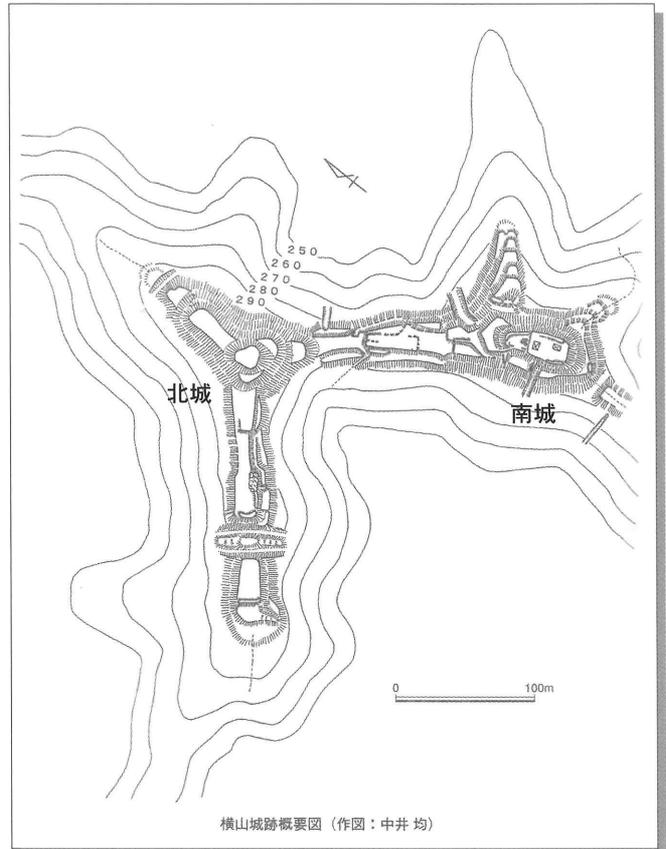




横山城跡遠望

横山城の構造

北城が、西尾根先端に二重堀切を設けているほかは単調な構造なのに対し、南城は、主郭の周囲に土塁を巡らせ、虎口や堅土塁・堅堀などを設けるなど、発達した構造になっています。天正10年(1587)の賤ヶ岳合戦の際に、秀吉によって、最前線や第二次前線に多くの城塞が築かれましたが、これらが突破されたときの備えとして横山城が改修されたことが宇喜多秀家に宛てた秀吉の文書からうかがえ、現存する遺構はこのときの改修の可能性が指摘されています。



横山城跡縄張図



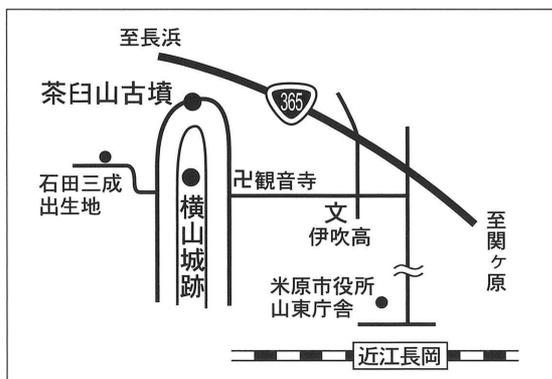
北城/南城
虎口/井戸跡



茶臼山古墳



横山丘陵の先端には、北近江で最も古い前方後円墳のひとつ「茶臼山古墳」(県史跡)があり、姉川合戦の際に織田信長が陣取った「龍ヶ鼻砦」とされています。このほかにも、横山丘陵には多くの古墳が点在し、これらが砦として利用されていることがわかっています。また、横山城の南東山麓には、伊吹山四護国寺のひとつ「観音寺」があり、秀吉と三成の出会いの場として知られています。



横山城跡

- 所在地 滋賀県米原市村居田ほか
- アクセス JR東海道線近江長岡駅下車。湖国バス長浜駅行き「朝日」下車 徒歩約45分。

米原市教育委員会

〒521-0242 滋賀県米原市長岡1050-1
TEL.0749-55-8020 FAX.0749-55-4556

平成23年度 埋蔵文化財活用事業